

第2回 J-DESC・IODP 部会・執行部 議事録

日時:2006年5月19日(日) 9:00~10:40

場所:東京大学海洋研究所 会議室 113

出席者:

執行部:鈴木徳行(北海道大学)・阿波根直一(北海道大学)・荒井晃作(産業技術総合研究所)・石橋純一郎(九州大学)・佐藤時幸(秋田大学)・佐柳敬造(東海大学)・白井正明(東京大学)・山田泰広(京都大学)・山本啓之(JAMSTEC)・北里 洋(JAMSTEC)

JAMSTEC:鷺尾幸久・笹山岳大

事務局:山田 泰・長橋 徹・加賀谷一茶

欠席者:海野 進(静岡大学)

議事次第(案)

1. 報告事項

- ・IODP 成果報告会について:石橋執行委員
- ・日本側 SASEC 委員選出報告:部会長
- ・第1回科学推進専門部会報告:部会長補佐、石橋執行委員、事務局
- ・IODP 乗船研究航海について(NanTroSEIZE など):部会長補佐
- ・Exp. 310 レヴュ - 委員選出について:部会長補佐

2. 審議事項

- ・SPC 委員公募について(公募要領案):事務局
- ・SPC 代理委員の選出(益田 SPC 委員:8/28~31、ルルウェー):事務局
- ・IODP 部会専門部会体制・専門部会長について:部会長補佐、事務局
(科学計測専門部会部会長の選出)
- ・IODP-MI 主催 Workshop 参加支援について:部会長補佐、事務局
- ・IODP 部会執行部 部会・学会担当役について:事務局
- ・IODP 大学&博物館キャンペーンの担当者について:事務局
- ・E&O Task Force member 担当について:部会長補佐、事務局
- ・プロポーザル作成支援課題実施要領(案)について:事務局

3. その他

- ・その他の報告事項など
- ・次回、執行部会日程

資料2 - 1 IODP 成果報告会プログラム

資料2 - 2 SASEC - Message from Paul Stoffa

資料2 - 3 第1回科学推進専門部会議事録(案)

資料2 - 4 - 1 乗船研究関連のメール

2 - 4 - 2 IODP Staffing Procedures

2 - 4 - 3 Co-Chief Scientist Agreement for Participation on USIO Riserless Vessel Expeditions

2 - 4 - 4 Co-Chief Scientist Agreement for participation on D/V Chikyu expeditions

資料2 - 5 Operations Review Task Force について

資料2 - 6 SPC 公募要領(案)

資料2 - 7 会員提案型 workshop 参加支援要領(案)

資料2 - 7 IODP 部会執行部 部会・学会担当一覧

資料2 - 9 プロポーザル公募要領(案)

参考資料 ISC2006 展示ブース出展のご案内

議事内容

議事に先立ち、5月15日付けで、AESTO 科学掘削推進部に着任した加賀谷氏より挨拶が行われた。

1. 報告事項

1) IODP 成果報告会について: 石橋執行委員 [資料2 - 1]

石橋執行委員より、本日(5月19日)に開催される第1回成果報告会について報告が行われ、以下の検討を行った。

報告会について

- ・報告会は、公式なものにするか事前に取り決めておく必要がある。
- ・発表内容の重複を防ぐために事前審査を行う必要がある。
- ・「ちきゅう」の運行が始まると、報告会を年に7~10回を行うことになるのでは。
- ・モロトリアム期間中のものについては、速報のみの発表としたほうが良いのでは。(今回の303はモロトリアムに抵触している)
(モロトリアムに関しては、成果報告会後も検討を続ける)

・会の英語名称について、今後検討していくこととする。

報告会成果印刷物の発行時期、ボリューム等について

- ・本日の報告会を例に、発表者の負担にならないボリューム(船上レベル程度)としたほうがよい。
- ・News Letter でも良いのではないか。

報告会の開催時期(回数、年内開催など)、報告会の正式・非公式の様式、成果物の内容、等はメール会議で検討することが確認された。

2) 日本側 SASEC 委員選出報告: 部会長 [資料2 - 2]

SASEC 委員選出について、鈴木部会長より説明の後、協議が行われた。

- ・JAMSTEC の巽、東京大学の木村の両氏を SASEC の日本側のメンバーとして推薦することになった。

- ・NSF から、SASEC 委員の選出人数を 4(日)・4(米)・2(欧)で希望している。(BOG よりの選出を除く)
 - 日本としては、次期候補の選出が大変になるので、人数を控えたいという姿勢できている。
 - 2 人でも結構厳しいので、3、4 人は無理ではないか。
- ・ESSAC 会議(6/7~8)の返答待ち(締め切りが、6/10 に変更)
- ・J-DESC としては、それまで静観する。
 - 今回の経緯を、鈴木部会長より、巽・木村氏に報告する。

3) 第1回科学推進専門部会報告: 部会長補佐、石橋執行委員、事務局 [資料2 - 3]

- 4 月 26 日に開催された科学推進専門部会の報告が、阿波根部会長補佐 / 石橋執行委員より行われた。
- ・3 つの専門部会が今年度から 1 つにまとめ、3 つの分科会体制となった。
 - ・執行部および事務局から、マンデートの確認と、本年度 AESTO が実施するプロポーザル支援の件に関するお願いをした。
 - ・部会の会則について説明がされ、了承された。

また、以下の協議が行われた。

- ・丸山部長が示された生物研究者向けの WG 設置については、設置を検討している。
- ・AESTO にて作成した支援案の公募要領について、科学推進専門部会で検討して頂いた。
- ・部会名称として「科学推進専門部会」の検討、「科学計画推進専門部会」としてはどうか。
 - (名称は現状のままとし、幹事会担当者の長尾氏と相談の上、必要に応じて改めて議題とする)

4) IODP 乗船研究航海について(NanTroSEIZE など): 部会長補佐 [資料2 - 4]

阿波根部会長補佐により、以下の説明が行われた。

- ・2007 秋の航海の募集が、6 月 1 日より開始されることが USIO と CDEX より連絡があった。
- ・この情報は非公式に各 PMO には流れたが、IO からはまだ航海名しか挙がってきていない。
- ・これに対し、USSSP より意見が出ており、J-DESC としてもその意見に概ね賛同する。

また、以下の内容の協議、意見が示された。

- ・複数の IO にて CDP を組む際に、どのようなノミネーションを行うか各 PMO には分からない。
 - IODP-MI が主導し、具体的に各 PMO に手順を明らかにしておく必要がある。
 - 混乱を避けるために、事前に Leg ごとの目標を PMO に流す必要がある。
- ・各航海の概要とスタッフィングについて IODP-MI での審議の後、6 月中旬に各 PMO により公募案内がされる予定。
- ・ランキングに関して J-DESC は推薦できるが、最終的な判断は IO と Co-Chief で行われる。
- ・従来どおり、1 人の研究者による複数の航海への希望順位別応募は可能なのか。
 - それぞれの IO 間で情報が共有されているのか、PMO には不明である。
 - (これらは、CDEX において確認することとする)
- ・J-DESC による公募ランキング、スタッフィングは、透明性を確保するため、そのプロセス公開する必要がある。

- ・IO と Co-Chief に対し、乗船研究者採用・不採用の理由説明を、J-DESC として IODP-MI を通してでも要求すべき。
- ・NanTroSEIZE Phase1 は、日本側乗船研究者の枠が 40 人見込めるので、研究者確保に向けて広くアピールをしていく必要がある。
- ・資料にあるスタッフィング等の内容について意見がある場合は、阿波根部会長補佐まで連絡する。

5) Exp. 310 レビュー委員選出について: 部会長補佐 [資料2 - 5]

阿波根部会長補佐より、以下の説明が行われた。

- ・原則として、公開終了後6ヶ月をめどに IODP-MI(ワシントン)は航海のレビューを実施している。
- ・Exp.310 のレビュー委員候補は、科学推進専門部会にてノミネーションし、今月中に連絡する。
- ・部会長補佐は、IODP-MI に対し Potential Reviewer を推薦する。
- ・IODP-MI は、推薦者に対し直接交渉を行い、旅費も支給する。

2. 審議事項

1) SPC 委員公募について(公募要領案): 事務局 [資料2 - 6]

事務局より、SPC 委員公募要領案について説明の後、協議を行った。

- ・公募はするが、平行して現委員に推薦者の有無を伺ったほうがよい。
過去に内輪で決めてしまい、問題になったことがある。
- ・委員公募は、原則としてローテーションオフになる1会議前に行う。
(代理出席者として出席可能な体制にしておく)

2) SPC 代理委員の選出(益田 SPC 委員: 8/28 ~ 31、ノルウェー): 事務局

事務局より、益田委員の代理選出について説明がなされた。

- ・執行部により、SPC 代理出席者として東大・工学部の徳永氏を推薦(事務局より連絡)。

3) IODP 部会専門部会体制・専門部会長について: 部会長補佐、事務局

事務局より、各部会における委員交代の報告がなされた。

- ・科学計測専門部会の現部会長である村山氏は、既に任期を1年延長していただいております、これ以上の延長は厳しい。
(次の専門部会までは、暫定的に委員として出席される予定)
- ・新部会長選出のため、引き続き後任者を検討する。
- ・委員の交代について、任期切れによる自動的な形式の交代は、問題があるとの指摘があった。
(今後の委員の交代方法について、続任が出来るようにするなどの柔軟な対応を検討する)

4) IODP-MI 主催 Workshop 参加支援について: 部会長補佐、事務局 [資料2 - 7]

事務局より、本支援への会員提案型活動経費の使用について説明がなされた。

- ・支援方法は、会員機関の所属のコンピナー、もしくは研究代表者に対し支援する形式としたい。
会員機関の代表者による応募を徹底し、単独の応募は認めないほうが良い。
本経費に対する会員機関の意識が不明であり、会員機関所属者以外の応募は認めても良いか。

申請代表者が会員機関であれば、問題ないと思われる。

・宮崎 WS は、他の支援を受けていない学生を対象に参加費を支給することを執行部会で決定済み。

(本 WS Steering Committee の木村氏より、7名の支援要請あり)

・J-DESC は、本支援の情報を代表者へ公開し、広く広報も行う必要がある。

・海外で開催の WS に対する支援はどうか。

Continental Breakup WS において、日本人コンビナーが不在である。

5) IODP 部会執行部 部会・学会担当役について:事務局 [資料2 - 8]

事務局より、現在の部会担当者の状況について説明がなされた。

・「国際交流・渉外」および「資金獲得・予算計画・会計」担当については、交代要員の選出は不要。

(残りの要員にて引継ぐ)

・「地球内部分科会」は、当面として1人体制(主担当:海野氏)とする。

・「環境保護安全専門部会」の佐柳氏、山田氏の主・副担当の交代が了承された。

・「坑内計測 WG」の 担当を山田氏から佐柳氏へ交代する。

6) IODP 大学 & 博物館キャンペーンの担当者について:事務局 [資料2 - 8]

事務局より、前担当者の木戸氏の後任選出について説明がなされた。

・大学・博物館キャンペーンは、北里執行委員に担当してもらう。

・今後は、AESTO が広報の主導的な位置づけになることがふさわしいとの指摘があった。

・担当者として AESTO を入れる。

7) E&O Task Force member 担当について:部会長補佐、事務局

本審議は、審議事項6)にて行われ以下の内容が部会長補佐より示された。

・E&O(Task Force)へは、現在 CDEX の担当者が出席しており、今後も継続してもらう可能性がある。

・継続して、E&O の J-DESC 担当者を発掘していくことが確認された。

8) プロポーザル作成支援課題実施要領(案)について:事務局 [資料2 - 9]

事務局より、配布した要領(案)について説明がなされた。

・支援は科研費と同じ扱いとし、研究者の所属する研究機関に支払われ、執行はその機関に一任する。

・本要領案に対し意見がある場合は5月22日までに事務局に連絡する。

(公開目処は、小泉委員会にて承認後の5月第4週中を目標)

・採択された研究者は、実施報告書及び成果報告書を提出する。

・実施報告書は出版物や研究会報告書等とし、成果報告書は IODP のプロポーザル(ただし、提出時点で盛り込める内容)を形式として J-DESC へ提出する。

(AESTO の予算の経理上、提出期限は3月中旬頃を検討)

3. その他

その他の報告事項など

- ・佐柳・山田執行委員より、EPSP 委員の任期について、対応に不満の声があることが伝えられた。
- ・事務局が経緯の把握することが確認された。
- ・今後の対応は、佐柳・山田・阿波根執行員と AESTO で行う。

次回、執行部部会開催日について(事務局)

- ・7月3日の週を候補とし、事務局にて日程を調整する。

以上